

2-2-2 周辺環境への影響

■ ぎふメディアコスモスやみんなの広場カオカオからの眺望

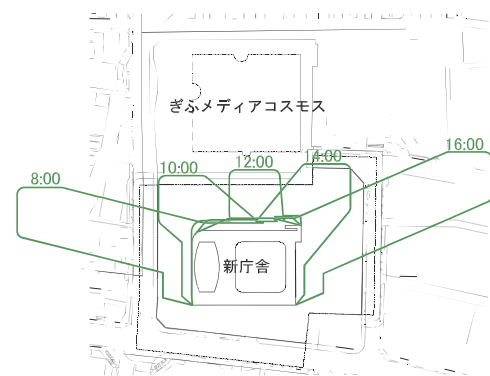
- ・低層部はぎふメディアコスモスの高さに合わせ、一体感を創出します。
- ・中高層部をスリムな形状にして東側に寄せることにより、ぎふメディアコスモスやカオカオから眺望した時の圧迫感を軽減し、空の開放感を生み出します。
- ・これらの形状の工夫や建物全体を南側へ寄せる配置により、ぎふメディアコスモスなどへの日影の影響も軽減します。



空の開放感を生み出し、圧迫感が少ない

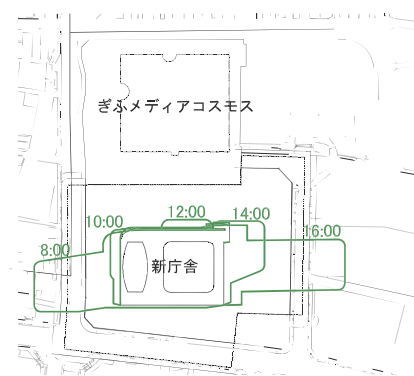
○ぎふメディアコスモスからみた眺望に配慮した建物形状

■ 日照への影響



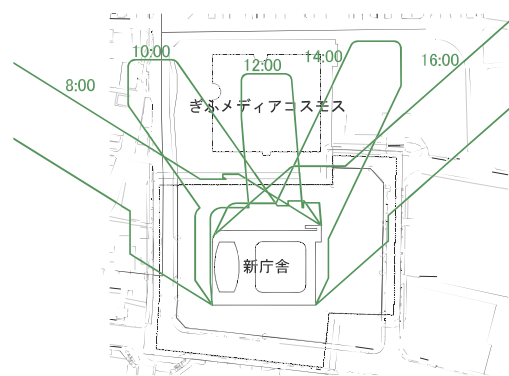
春分 (3/21 頃)・秋分 (9/23 頃)

ぎふメディアコスモスは日影となることはありません。
カオカオは、各時間帯において、日影となりますが、新庁舎をスリムな形状にすることで、日影の幅が狭くなり、時間とともにその範囲が速やかに移動していきます。



夏至 (6/22 頃)

太陽が最も高い位置を通るため、ぎふメディアコスモス、カオカオともに、日影となることはありません。

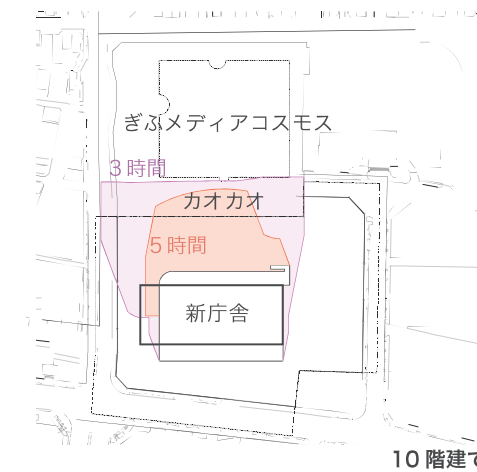


冬至 (12/22 頃)

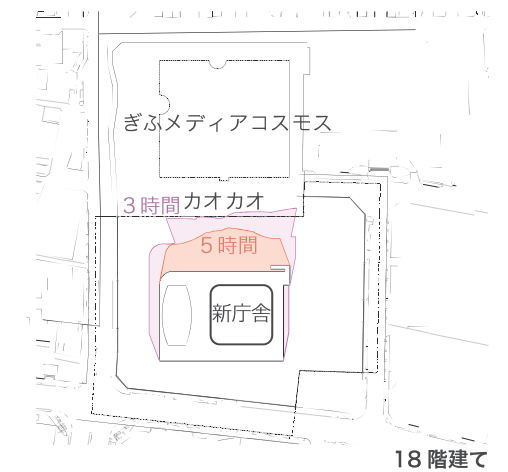
ぎふメディアコスモス、カオカオともに日影となりますが、新庁舎をスリムな形状にすることで、日影の幅が狭くなり、時間とともにその範囲が速やかに移動していきます。

■ 冬至における日影の影響

新庁舎を10階建て程度とする場合、カオカオの広範囲にわたって、長時間、日影になります。しかし、これをスリムな形状とすることで、長時間に渡り日影となる範囲が狭くなり、その影響が軽減されます。



10階建て



18階建て

○日影の影響を受ける時間比較

■ ビル風の影響

- ・新庁舎の中高層部の四方を、緩やかな曲面とすることで、風を受け流し、ビル風の影響を軽減します。
- ・大きな低層部を設けることで、上部からの風の吹き下ろしが分散され、地上へのビル風の影響を軽減します。



○周辺へのビル風の影響を軽減する建物形状